

会 議 記 録

会議名	第4回 芦別市総合庁舎整備庁内検討会議
-----	---------------------

日 時	令和2年4月6日（月） 午後3時00分から午後4時まで	場 所	市役所 3階第1会議室
-----	--------------------------------	-----	----------------

第4回 検討会議の内容について、次のとおり記録したものである。	
会 議 の 概 要	
1 開会（危機対策課長） 【説明】以下、危機対策課長 今日は1月に開催してから、3か月ほど経ちました、前段これまでの庁舎に関する状況をお話ししたいと思います。 まず、1月23日に3回目の市民検討委員会を開催しました。 基本構想（素案）を出し意見をいただきました。資料の「市民検討委員会で出された意見」にまとめていますが、◆に記載されているものが1月23日出された意見です。 出された意見としては、 ・現実的にどれくらい地元業者が携われるのだろうか。専門業者がいないので、やれるかやれないかの判断はできないが、建設に限れば建設業協会に投げかけて団結して造れないかという議論をしてもらってもよいのではないか。 ・約200名の職員が入る庁舎ということで執務スペースが算定されているが、執務スペースを縮小してコンパクトにしていけるのではないか。 ・全体的に面積を小さくするのが良いわけではないという意見も出ていたので、空いたスペースを複合施設に転用するというような機能の充実も図れるのではないか。 ・コスト面もあるかもしれないが、芦別の売り（木のこと）を庁舎にどのように反映していくのか。 ・建設する場所に関する意見として、2つありますが、どちらも福祉センターの横で良いとされている。ただし、連結されることで福祉センターの会議室との併用が図られ、コスト削減につながるし、無駄なスペースを設けないことはコスト減になる。ということが言われました。 庁舎の複合化に関しては、計画性をもって進めてほしいという意見がありました。 防災に関しては、ヘリポートについて建物でなくても駐車場内でもいので考えてほしいという意見がありました。 最後にその他として、 ・旧消防庁舎の有効利用として、車庫や書庫等での有効利用が図れるのではないか。	

- ・ 1階スペースで、来庁者が全て完結できるようにしてほしい。という意見が出ました。

次に2月に行ったまちづくり懇談会の資料をご覧ください。

大まかに説明した内容としては、基本構想素案に賛成という意見のほか、

- ・ 建替えは必要だが、将来人口などを考えコンパクト化し、費用の圧縮を図る
- ・ 建替えるなら木造庁舎とすべきではないか。
- ・ 建て替えることで市民サービスの低下にならないか。

反対意見として、庁舎建設より先にやることがあるのではないか。などのご意見をいただいたところです。

細かくは、別紙を参照してください。

また、市民500人を抽出してアンケート調査を実施しました。結果につきましては、別紙のとおりですが、19歳以上の男女が対象で、19歳は40人、80歳以上も40人、それ以外の年代は70人という形で行いました。回収は174人で改修率は34.8パーセントとなりました。

その中で、4ページになります。最近市役所に来られた方が125人、問6どのくらいの頻度でという設問では、年1回から3回が66人となりました。5ページ問8用件については戸籍が83人と多く、2番目が国保、次いで税金となっています。

7ページ目の問9は不満・不便な点を確認したのですが、部署名が分からないということが一番多くなりました。次に一か所で要件が済まないが40人、プライバシーの配慮ということで32人となりました。

8ページの問10、庁舎整備の考え方について聞いています。現地・隣接に建替えが98人と圧倒的に多くなっています。

12ページの自由意見になりますが、

- ・ 木を用いた庁舎
- ・ イベントスペースがあること
- ・ 気軽に立ち寄れる雰囲気がある庁舎
- ・ 子育て相談も個室があると相談しやすい
- ・ バリアフリー化、エレベータの設置等があげられます。

厳しい意見としては、

- ・ パートをなくして職員が仕事をする。給料をカットして修繕にまわす。
- ・ シンプルな建物、大きな会議室はいらない。
- ・ 現庁舎付近の建替え、再生可能エネルギーを使用する
- ・ カナディアンの負債が令和8年に終わるのだけれど心配、苦しい財政の中で建替える決断と、何度も修繕を繰り返して費用がかさみ、建物の寿命が変わらない中での決断、どちらがより市民の税金が無駄にならず有効に使われることになるのか、長い未来を見据えて決断してほしい。
- ・ 2階建て3階建てのコンクリートで四角のつまらない建物を造るのはやめてほしい。
- ・ 中古物件でも利用できないか検討してほしい。
- ・ 窓口を一行にして分かりやすくしてほしい。
- ・ 建て替えを行うのではなく、本当に必要な整備のみをしてほしい。などの意見が出されました。

次に、市議会が行った市民との意見交換会を踏まえ、市議会から要請がありました。意見交換会では、5つの班に分けて2人ずつ議員が入り進行され

ました。

出てきた意見は、

- ・進め方が拙速。
- ・大規模な借り入れが将来芦別市に財政の破綻につながる。
- ・新築するのではなく、現状の空いている施設に分散化。
- ・庁舎建設に対しての考え方、進め方に憤りを感じる。
- ・情報公開が少ない。
- ・高校生からの意見も聞くべきでないか。
- ・なるべくコストをかけないでほしい。
- ・将来的に職員、市民が減るので、コンパクトな庁舎。
- ・福祉センターの空部屋にウエートを大きく使い新庁舎は小さく。
- ・若い人に負担をかけない。
- ・35億円という借金が気がかり。
- ・3階建てではなく2階だけでもよいのでは。
- ・芦別市の森林を活用。といった意見が出されています。詳しくは、後ほど資料を参照してください。

市の考え方ですが、総合庁舎の建設にあたり、有利な制度を活用することが、市民の利益につながるものと判断し、同制度の期間内に実施設計の着手に努力したい。また、今後の進め方も、議会で議論をさせてもらい、4月に基本構想をお示しし、まちづくり懇談会を開催し、市民の皆様にも説明をし、意見交換を行いながら進めていくとして、3月市議会で答弁をしております。

それから、3月の定例会期間中に、新総合庁舎整備特別委員会が作られ、今後この委員会の中で議会と議論をしていくこととなります。

また、庁舎整備は市民と議会の理解なしでは進めることができないので、市民が反対というものまで進めようとは考えていない。反対ということであればその時点で判断する。と市長から話がありました。

基本計画についてどういったものであるかについて議会で議論となり、一部の方からは、最初から建てるべき大きさのもので出してもらいそれを検討するとの話が出ていましたが、基本設計をしなければ構造計算なども行っていないので出せない旨を説明し、基本計画では、考えられるものすべてを盛り込み、基本設計時に、経費面など総合的に勘案し、必要なものをチョイスし、それを、議会や市民にお見せし、また意見をもらうという話をしていますが、今後の委員会で議論になると思われます。

今後ですが、10日に、市民検討委員会、13日に特別委員会、4月20日から28日に、まちづくり懇談会、5月に特別委員会、臨時市議会という流れになっていくと思います。

今日は、基本計画の前段で、委員会に資料として出したものと同じものを皆さんに配りましたので、その中でご意見をいただき、反映できるものは反映していきたいと考えています。

まず、意見をもらう前に、質問を受けたいと思いますが、現在議会との間で、議論となっていることについて、それから現時点での考え方についてお話しし

ます。

将来を見据えた庁舎とし、入る職員を減らしコンパクトな庁舎とする。その時には、福祉センターと隣接するので、活用できるものは利用して新しい庁舎になるべく造らないということをおっしゃっています。それから、木を利用することもおっしゃっています。

- ① 参考として職員数を令和2年1月現在の人数を載せ、国土交通省の基準により面積を出しております。職員数について、現時点ではなく、例えば20年後（令和22年度）の128名とし、現時点で入れない職員については一時的に隣接する福祉センターなどに配置をし、新庁舎の空きが出た場合職員を順次移動させる。会議室についても、福祉センターの空き室を活用し、新庁舎の面積を減らし建設費を少なくする。旧消防庁舎も活用する。（耐震面から車庫や書庫として活用）としていますが、福祉センターの利用状況では、使用が思ったよりもあることから、そこを執務室とすることは利用している方の代替場所を見つけるなどしなければ無理なのかなと思っています。会議室とした場合も、市民の方の利用と奪い合いになる可能性があるので、利用している団体と協議が必要になることが考えられます。
- ② 芦別の特産である「木」による庁舎を建設する。
これについては、現在考えている庁舎規模のものを建設する場合、福祉センター横の都市計画区域が耐火建築物でしか建設できないことから、木造の内でもCLT（集成材を組み合わせて作る方法）で、周りを石膏ボードで囲んだものしか利用することができないため、基本設計時に費用面を含め他の方法と検討するとしていますが、費用が高いといわれています。
- ③ 木質バイオマスボイラーの設置については、チップを堆積する場所、あくを捨てるなどが必要であることから、費用面や補助金を含め検討するとしています。

事前配布した資料を見てきていると思いますが、福祉センターをどのように利用していくかが問題になると思います。事業費に関しては、どの時点で行っても多額となるもので、現時点では少しでも抑えるために、あるものを利用することや、いい制度があれば活用するというところで考えています。しかし、現在、コロナウイルスの関係がある中で制度が来年までとなっていることに対し、正直なところでは延長してほしいところですが、こちらの都合だけでそうならないと思われ、最終的にどのようになるかは分からない状況です。

面積を5,000㎡としていることに関して考え方はありますか。

（発言無）

レイアウトに関して14ページを見てほしいのですが、今の人数を5,000㎡として考えた時でも、余裕をもって入れるかというところでもありません。多目的トイレを作ると今の2倍ぐらいの面積になるはずですが、また、現在ない部分としてエレベータやホール、市民エリアなどを新しく整備するとすると、広く見えても執務スペースは広くならない建物になると考えています。

レイアウトにしても、今は課ごとに設置していますが、ユニバーサルレイアウトという課がまたがるような並びになると思います。書類なども現在のような状態では収まらないので、整理の仕方を変えなければならないと考えています。一時的に書庫に持っていくことはできますが、書類として周りに保管して

おくことはできなくなります。

現在考えている構造では、1階、2階が執務室で、3階に議事堂を設けて議会がない時は多目的に使える会議室とし、他に1・2階に入りきらない行政機関を3階にとともに考えています。

32ページに書いていますが、福祉センターと並べての配置としてはこのようになると思っており、福祉センターと新庁舎の間にエレベータを設置して往来できるようにしたいと考えています。福祉センターの別館にあるエレベータは古くなっているので、将来的には物を運ぶエレベータとしての活用を予定しています。

【質 疑】

◇会議室に関して、現在でも市役所内で空いていないことがあり、ふれあいホールが使えればいいのですが、選挙や確定申告などで一定期間押さえられているので、さらにここがなくなると会議室の確保が大変だと思います。

◇危機対策課長

会議室の話が出ましたが、議会から話があったのは議会のために立派な建物を建てなくても、福祉センターのふれあいホールや大ホールでいいという話は出ていますが、そこを議会で使うとなると他に場所がなくなってしまいます。3階をなくせば面積が減ることにはなりますが、実務を考えた時に大変なことになってしまいますので、面積は他のところで減らせればと思っています。

ボイラーの話もしましたが、今度考えているのが3階となっており、木質チップボイラーとなると、チップの投入などから3階では難しくなります。補助金も1/8持ち出しで残りは補助金と起債で賄える有利なものがあるのですが、令和2年度までとなっています。それ以降の補助金の話はまだ出てきていません。ただ、これまでも同様な補助金があり、内容が少し変わって継続することもあるかもしれません。しかし、環境省に電話で確認したところ、現在のところは木質ボイラーに関して話がない状況であるということでした。補助が少ない制度はありますが、1/8は大きいので、これからもアンテナを張って進めたいと考えています。

◇都市建設課長

会議室については、言われるとおり選挙などでふれあいホールや大ホールが使用されることに関して、考えているのが市民スペースで、一階の一角に一つの課が入れるぐらいのスペースを考えています。そこでイベントだったり、健康推進の事業だったりができるようにと考えています。普段は市民スペースとして活用して、選挙や確定申告などの時は、そこに一つの課が入って対応するというのを考えています。3階に予定している議会棟は、議会がない時に会議室となるようにオールフラットとしているので、現在、会議室が不足していると思いますが、新庁舎ではワンフロアに小会議室だけでも2つぐらい、プライバシーを守るための相談スペースが各階に4つずつぐらい設けています。こういう施設が増えるので、執務スペースは現在より減ることになります。物を間において仕切ることができないし、どれかの機能を福祉センターに持っていったとしても、福祉センターの中を改装するなどのお金をかけるのであれば、新庁舎に加えた方がいいと思われれます。

例えば、福祉センターの一階に大会議室を造ったらどうかと検討したことがあり、老人クラブが使用している場所を会議室にする見積りを取ったら改修に約2,500万円となりました。それだったら、新しい方で賄ってそれでも足りな

い時に福祉センターを使うとしていかないと、福祉センターに新たに執務室を造るとして機能を満たすとなったら改装費の方が高くなってしまいます。20年もすれば福祉センターの耐用年数を迎えてしまうので、現在の考えに基づいて庁舎を建設して、将来ずっと使えるようにした方がいいというのが設計側の考えです。

2階建て3階建ての考え方になりますが、階数が低かったら金額が安くなると思うかもしれないが、階数を低くして平面の面積を広くするよりも、1階ごとの面積を小さくして3階建てにした方が金額は安くなります。基礎や屋根の格子部分が高いので、建物も真四角が一番安くなります。でっぱりを付けたいならば、中を抜くなど安い建て方を考えており、空調の関係もそうですが、1階から3階まで空気が廻るような自然型循環エネルギーも考えています。真四角で3階建て、3階建てと考えるのは、福祉センターとの兼ね合いもあって、福祉センターの3階にエレベーターないので、3階の会議室を使う時に市民はどうやって行くのかを考慮すると、新庁舎のエレベーターで3階まで行って福祉センター側に移動するというのを考えています。

福祉センターは現状を活かした利用として、改めてお金を掛けないで進めていきたいということを理解してほしい。

◇福祉センターの別館の一階部分が物置スペースになっているという話を聞きました。複合にするのだったら、物置スペースであれば、置いてあるものをどうにかしなければならぬが、活用できるのではないかと思います。そういう話し合いはこれからするのですか。

◇危機対策課長

そういう場所があるのは知りませんでした。そういう場所があるのであれば、会議室としたいところです。団体が入っているとしか聞いていない。

◇都市建設課長

利用者が作業しているのでは。

◇作業場の向かいの場所が物置スペースになっていると聞きました。

◇危機対策係長

福祉係と打ち合わせをしたが、全体的に利用できるということで、3階を中心に話をした経過があります。1階部分については、作業のための材料が入っている可能性があります。確認しておきます。

※4/13 福祉係確認／福祉センター1階、機織機、身体障害者協会の資材等が置いてある（単なる物置ではない）。

◇新庁舎になった時には机とかの備品も新しくなるのでしょうか。

◇危機対策課長

机は持っていくことになると思います。

◇スチールとかも持っていくのですか。

◇危機対策課長

使えるものは使うが、スペースの都合で全部は持っていけないと思います。

ただ、見えるところは木を使用したいとは思いますが、金額の問題もあります。内装面で木を使うという話はしていますが、全部が全部使えるかといえばそうでもなくて、耐火になっていないといけないので、全部に使用することはできません。なので、目立つようなところ、1階の入り口付近であるとかに使えればと考えています。それも設計に入ってからになると思います。

◇都市建設課長

考え方としては、建物の壁材としては消防法の関係で制限があるのであまり貼れないけれども、例えば芦別のカラマツで大きなカウンターで造るなど、木を多く使用するという意味でいえば一つの方法だと思います。

今度は書類を置いておけないので、今からデータ化するなどの意識を持って行ってほしい。

◇危機対策課長

ファイリングシステムをすることになりますか。

◇総務課長

目指す方向としては、ファイリングシステムになると思います。そうしないと書類が減っていかないと思います。ただ、やるとなれば皆さんの協力が必要になってきます。手持ち資料で持ってしまうと増えるので、原本しか書類は置かないという形がベストです。新十津川・ニセコもやっています。結構厳しく管理していると聞いています。

◇26ページのゼロエネルギーの実現とあって、いいなと思ったのですが、具体的なこうしますというのがないのですが。

◇危機対策課長

手持ち資料を持ってきていないが、エネルギーを作る、作ったもので賄うというのがネットゼロエネルギーの考え方です。従来の方法よりも、使う量が0パーセント以下、要は作る方が多いというのが一番高い基準です。その次が50パーセント、次が作るのではなく単に省エネという3種類となっています。これについても自分たちだけでは分からない部分なので、基本設計に入ってから判断していきたいと考えています。

◇都市建設課長

具体的なエネルギーは、自然エネルギー、太陽光だったり地中熱だったりを利用すれば、作るエネルギーになります。詳しく書いていないけれど、その手前のところで、25ページに自然エネルギーの活用が載っていて、これが作るエネルギーになります。26ページに載っているのが、使う方の削減となっていて、これの組み合わせとしています。目指すこととするが、実現はなかなか難しい、投資がかかるので、費用対効果を見てやらないと、ヒートポンプを使うとなると金額がかかります。何年でペイできるのか、太陽光もパネルをたくさん敷いたとしても、10年後に更新にいくらかかるのかを計算しながらやっていかないとならないので、それも基本設計の中で100を目指すのか50にするのかなどを検討することになります。現状はクリーンエネルギーを目指すという観点から検討することとしています。やっても太陽光が現実的だと思っていますが、全部を賄うことはできないと思っています。民間では実施しているところもあるが、役所での実現は厳しいと思っています。

◇調べたのですが、人の歩くところに敷いて振動で発電するパネルがあるので、市役所は人が多く来る場所なので活用できないかと思いました。最初にお金がかかるかもしれないが、ランニングコストが抑えられるということを市民に分かってもらえれば、コストを下げるだけじゃないということ伝えられるのではないかと思います。

◇都市建設課長

知らなかったので確認しておきます。富良野とかも補助金を利用してやろうとしているはず。金額がかかってもいいが、何年でペイできるかということ、ペイする前に更新が必要となれば、そこで新たな投資がかかるので、費用

対効果を見極めないとならないと考えています。

◇41ページの旧消防庁舎は、いつかは壊すという考えですか。

◇危機対策課長

当面は使用したいと考えています。ただ、耐震の関係があるので人は入れないと考えています。車庫と倉庫とすることを想定しています。

◇使い続けるのでしょうか。

◇危機対策課長

使えるうちは使いたい。

◇都市建設課長

人が入らないし、普段人がいないので振動とかもなく、よっぽどでもない限り、クラックが入ったとしても潰れはしないと思います。

◇一時的に利用して、ある程度になったら壊すということではないのですか。

◇都市建設課長

そうではないです。

◇危機対策課長

使うとしても2階に行くための階段は必要になります。

これで終了としますが、議会との間で面積について話が出ていて、今5,000㎡で説明していますが、職員も市民も減っていくという状況の中で、その中で庁舎建て替えに関する意見があったら出してもらえればと思います。

(終了)